

まちと人をつなぐ、みどりのチカラ

都市農業に関する 交流会

～コミュニティ農園の可能性～

開催日時

令和 8年 9月 17日 (木) 13:30～16:30
(開場・受付 12:45～)

会場

マイドームおおさか 8F 第1・第2会議室
大阪府中央区本町橋2-5

開催内容

1. 基調講演

「大阪公立大学が挑戦する都市農業」

講師：大阪公立大学農学研究科 教授 横井 修司 氏

2. 情報提供

「家庭菜園のあるある話」

タキイ種苗株式会社

梅本 剛 氏

3. 取組事例発表

cotonなかせんば(大阪府中央区)

大西 愛美 氏

みんなのうえん(大阪府住之江区)

金田 康孝 氏

ゆーかりファーム株式会社(八尾市)

橋本 和則 氏

4. トークセッション及び質疑応答

テーマ「コミュニティ農園の可能性と種苗の役割」

ファシリテーター：大阪公立大学

横井 修司 氏

パネリスト：タキイ種苗株式会社

梅本 剛 氏

cotonなかせんば

大西 愛美 氏

みんなのうえん

金田 康孝 氏

ゆーかりファーム株式会社 橋本 和則 氏

都市に「農」がある
暮らしの豊かさを、
一緒に考えませんか？



参加費
無料

定員
100名
先着順

参加対象者

- ・農に親しんでいる、または、農に親しみたい
と考えている消費者
- ・関係機関等

お問い合わせ先

近畿農政局大阪府拠点
(06) 6941-9062

申込み方法

申込フォーム

<https://forms.cloud.microsoft/r/L3TDddGiHX>

申込期限：9月11日(金)17:00



都市農業は、新鮮な農産物の供給に加え、食育や交流の場の提供、環境保全、防災など多様な役割を担っています。また、コミュニティ農園は、誰もが気軽に農に親しみ、地域とのつながりを深める場として注目されています。

本交流会では、コミュニティ農園の取組事例を紹介し、食や農への理解促進と地域コミュニティの活性化を図ります。

講師・ファシリテーターの紹介

大阪公立大学
農学研究科遺伝育種学

横井 修司 氏

大学院時代にイネへの耐冷性を題材にストレス植物研究をスタートさせ、ポストドクとしてアメリカでシロイヌナズナのストレス耐性メカニズムを研究しました。

帰国後に奈良先端科学技術大学院大学で植物の開花メカニズム、岩手大学、大阪府立大学、大阪公立大学で植物の相転移メカニズムと雑穀(アワなど)の品種育成を中心に研究を行っています。また、フィールド長に就任後は、大都市である大阪で持続可能な農業(Regenerative Urban Farming)の社会実装にも取り組んでいます。

パネリストの紹介

タキイ種苗株式会社通販部

梅本 剛 氏

タキイ種苗は野菜・花の品種開発から種苗の生産、販売までを手掛ける総合種苗メーカーです。プロフェッショナルの農家向けだけでなく、通販部では、家庭や小規模で楽しむお客様に向けて、野菜・花の幅広い品目を取り扱い、園芸を楽しむお客様へ商品や栽培情報を提供しています。お客様の声に耳を傾けながら培った知識と経験をもとに、家庭菜園・園芸の楽しさをお伝えしています。

cotonなかせんば

【辰野株式会社不動産事業部】 大西 愛美 氏

リジェネラティブな未来に向けて新たな一歩を築いていきたいという想いで、「農」と「食」をきっかけに人と自然、人と人との“えん”を紡ぐ場として、「都市型コミュニティ農園“cotonなかせんば”」を設置、運営しています。

アクセス

マイドームおおさか

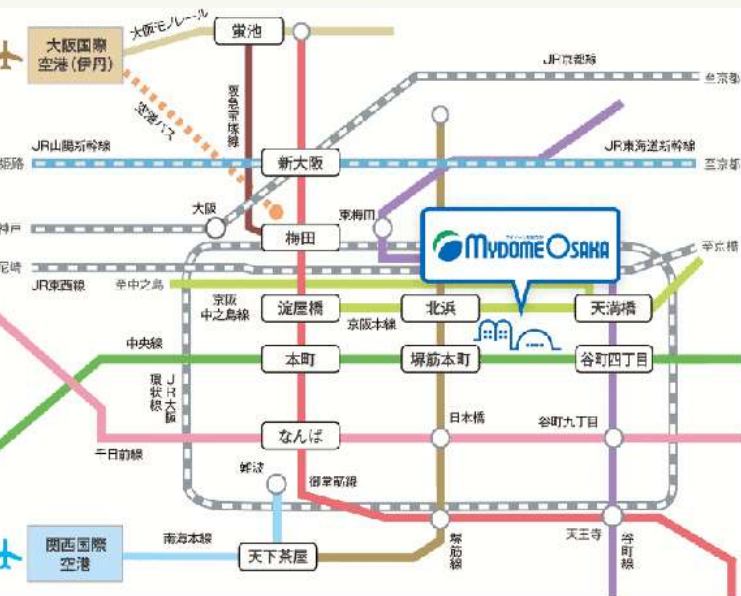
大阪市中央区本町橋2-5

<https://www.mydome.jp/organizer/access/>

Osaka Metro 堺筋本町駅 徒歩約6分

Osaka Metro 谷町四丁目駅 徒歩約7分

京阪電車 天満橋駅 徒歩約13分



みんなのうえん

【一般社団法人グッドラック】 金田 康孝 氏

農薬や化学肥料を使わずに安全でおいしい野菜を育てる(無農薬有機栽培)畑を借りるだけでなく、利用者同士や地域の人々がチームになって農園の開墾を行い、様々なイベントも企画し、世代を超えた交流を行っています。

農地だけではなく、休憩施設やキッチンなどを併設することによって、料理教室や食を中心とした交流活動を行っています。自分たちが欲しいものを自分たちの手で作り、常に変化し続ける農園です。

ゆーかりファーム株式会社

【福樹園】 橋本 和則 氏

野菜・花き種苗、園芸用品一式の販売するほか、農業法人として立ち上げたゆーかりファーム株式会社としては、東大阪市の株式会社西田ヤファームと共同で中心となり、大阪府内の有志農家が担い手不足が深刻な島根県雲南市の中山間地域において、都市部の農家が耕起作業を中心とした主作業を引き受けています。この取り組みは、農地を維持・再生する「都市×地方共生型農地維持モデル」の実証を雲南市の全面的なバックアップを受け推進しています。